

令和8年度 第1回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和8年6月1日（月）
開会 午後2時30分 閉会 午後3時20分
- 2 場 所 志布志市役所 志布志庁舎4階 庁議室
- 3 議 題
 - (1) 報告
 - ア 今後の児童生徒数の推移について
 - イ 有明地域の小学校の在り方に関するアンケート調査報告について
 - ウ 悠志学園の開校等について
 - エ 歴史的建造物活用推進事業について
 - オ 大妻女子大学との包括連携協定について
 - (2) 協議
 - ア 令和8年度に取り組む学校の在り方検討について

4 出席者（出席構成員）

志布志市長	下平晴行
教育長	福田裕生
教育委員	島津陽亮
教育委員	津町千代子
教育委員	益田裕子
教育委員	前田和彦

（事務局）

志布志市副市長	鮎川勝彦
総務課長	富岡裕
総務課行政グループリーダー	立岡勇作
教育総務課長	児玉雅史
教育総務課総務施設グループリーダー	橋本淳二
教育総務課総務施設グループサブリーダー	徳重康成
教育総務課学校給食グループリーダー	松永憲一
学校教育課長	神田圭
学校教育課参事兼学校教育グループリーダー兼指導主事	濱田浩司
学校教育課学事グループリーダー	菅屋祐一
生涯学習課長	河野尚仁
生涯学習課社会教育グループリーダー	和佐修一
生涯学習課文化財管理グループリーダー	小村美義

総合政策課長
総合政策課政策推進グループリーダー

川上桂一郎
溝口茂樹

5 会議の経過

午後2時30分 開会

○ 開 会

【富岡課長】

皆様、御起立ください。

ただ今から、令和8年度第1回志布志市総合教育会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

御着席ください。

本日は、御多用のところ御参集いただきまして、誠にありがとうございます。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

出席者におきましては、別紙名簿を御覧いただきたいと思います。

それでは、会次第に沿って進めさせていただきます。

まず、はじめに、開会に先立ちまして、下平市長が挨拶を申し上げます。

○ 市長挨拶

【下平市長】

皆さん、こんにちは。

令和8年第1回目の総合教育会議ということで、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今回は、報告5件、協議が1件であります。協議については、令和8年度に取り組む学校の在り方検討についてということで、有明地域の6小学校区の小学校の今後の児童生徒数の推移や昨年度行ったアンケート結果を示し、保護者や地域において、議論の醸成に努めることや志布志地域の3小学校の今後の児童生徒を数の推移を示し、現状認識してもらうこと、また、保護者アンケートを実施する取組であります。

限られた時間ではありますが、本日の会議が実り多いものになりますよう、皆様の忌憚のない御意見を賜りますことをお願い申し上げます。冒頭の御挨拶とさせていただきます。

○ 議 題

【富岡課長】

それでは、早速ではありますが、会次第3の議題に入りたいと思います。会議の議長につきましては、総合教育会議設置要領第4条第4項の規定により、市長が務めることになっておりますので、市長よろしくお願いいたします。

【下平市長】

まず、報告案件アの「今後の児童生徒数の推移について」を議題といたします。事務局による説明をお願いします。

○ 報 告

【児玉課長】

それでは1ページを御覧ください。報告アの今後の児童生徒数の推移について、報告します。

まず、本年4月9日現在の児童生徒数ですが、表の右側上段に小学校の合計として、1,416人、前年度の小学生は1,497人でしたので、81人の減となっております。右端の中学校の合計が823人、前年度831人でしたので、8人の減となっております。

下段の表、2の基準年度の令和4年度からの新入学児童数の推計ですが、令和14年度の児童数が、令和7年度の出生数となっております。最下段の右側から2列目で143人になっています。表左端の令和4年度の児童数が281人ですので、比較すると半減しております。少子化が続いていると見ることができます。

2ページを御覧ください。3の地区別児童生徒数の推移ですが、中学校全体の生徒数を、令和4年度と令和14年度を比較すると表の右端にありますとおり、166人、20%の減となっております。前年度が141人、16.9%の減でしたので、減少が更に進んでおります。小学校全体の児童数が800人、45.9%の減となっております。前年度が740人、42.7%の減でしたので、こちらも減少が更に進んでおります。それぞれの地区を見ますと、松山地区が106人、53.5%の減、志布志地区が333人、37.8%の減、有明地区が361人、54.4%の減となっております。また、水色の部分ですが、令和20年度の中学校の生徒数がこちらの児童数になります。中学校全体の令和4年度の生徒数は832人で、2段目の表、小学校全体の右側にある水色の部分が、143人、146人、165人となっており、合計が454人となっておりますので、378人減少する見込みとなっており、その減少率は、45.4%になります。

3ページを御覧ください。中学校区別の推移ですが、右端の比較の部分を見ていただくと、松山中学校区3小学校のうち2校が50%を超える減少率となっており、一番下の表になりますけど、全体で、106人、53.5%減少すると見込まれております。令和11年4月の義務教育学校設置の児童生徒数は、一番上の表の中学校全体の令和11年度を見ていただきますと中学生83人、一番下の表の小学生全体の令和11年度が99人を見込んでおります。

4ページを御覧ください。志布志中学校区の6小学校ですが、こちらも右端の比較の部分を見せていただくと、志布志小学校で107人、37.5%の減、香月小学校で86人、31.5%の減、安楽小学校で86人、34.8%の減となっております。市街地にある3小学校は、令和12年度

には、香月小学校の2年生のみが2クラスとなります。それ以外の全ての学年で1クラスとなることを見込まれております。特認校の3校につきましては、令和9年度までの新規を見込んでおりますが、令和14年度の児童数は、それぞれの小学校の校区内に住んでいる児童の数となります。潤ヶ野小学校が16人、5ページになりますが、森山小学校が4人、田之浦小学校が2人となっております。合計で333人、37.8%減少すると見込まれております。

6ページを御覧ください。有明中学校区の2小学校ですが、有明小学校は84人、55.3%の減、通山小学校は46人、34.6%の減となっております。有明中学校区全体では130人、45.6%減少すると見込まれております。

7ページを御覧ください。宇都中学校区の4小学校ですが、原田小学校を除いて、大幅に減少する見込みとなっております。蓬原小学校が46人、59%の減、野神小学校が92人、69.2%の減、山重小学校が36人、76.6%減となっており、宇都中学校区全体では188人、62.3%減少すると見込まれております。

8ページを御覧ください。伊崎田中学校区ですが、伊崎田中学校が16人、40%の減、伊崎田小学校が43人、56.6%の減となっております。

9ページを御覧ください。令和14年度の有明地域の小学校の男女別児童数となっております。上段が有明中学校区の2小学校となっております。全ての学年で1学年当たりの児童数が10人から18人となる見込みとなっております。宇都中学校区の4小学校では、山重小学校が全学年において、同性の同級生がいない状況となります。他の3小学校につきましても、半分の3学年で同性の同級生がいない状況となります。このように厳しい状況が続いていくことをわかっていただけたと思います。

教育委員会の後期基本計画では、1学年20人程度を下回る見込みとなっている小学校については、地域の学校の在り方について協議する場を設けるとしております。また、志布志の市街地にある3小学校についても小規模化が進展して参ります。今年度は方針を定めて、保護者及び地域の方が自分事として考えていただけるよう取り組んで参りたいと考えております。

以上で報告を終わります。

【下平市長】 ただ今、報告がありましたが、皆様から何か御意見や御質問はありませんか。

【下平市長】 特にないようですので、次の報告案件イの「有明地域の小学校のあり方に関するアンケート報告調査について」を議題といたします。事

務局による説明をお願いします。

【児玉課長】

別冊の資料1ページをご覧ください。昨年11月に実施いたしましたアンケート調査の概要について、調査の目的、調査対象、調査方法等を記載しています。対象は、伊崎田小学校を除く、有明地域の6小学校の保護者で、アンケート期間は11月中旬から12月15日までとしておりました。回答率は若干低くて、50.8%となっております。

3ページを御覧ください。「今後、学校の在り方について検討が必要だと思いますか。」との問いに対する回答になっております。令和5年1月に同様のアンケートを行っておりますので、その比較で説明します。令和5年に実施しましたアンケートは右側になっておりますが、検討が必要と回答された割合は、「すぐに必要」と「将来的には必要」と回答された割合を合算すると83%になりますが、今回のアンケートでは51%に減少しております。「必要ない」と回答された方は4%から15.2%に増加しております。また、「分からない」と回答された方も、12.6%から33.7%に増加しております。この要因といたしましては4ページにありますとおり、統合の規模を具体的に示したことにより、保護者が今後の在り方について戸惑われているのではないかと考えております。3ページの下段に小学校別の内訳がございますが、左側の今回実施したアンケートでは、学校の在り方について、「すぐに必要」と「将来的には必要」と回答した保護者の割合が、有明小学校で59.7%、通山小学校で41.6%、原田小学校で45.8%、蓬原小学校で51.2%、野神小学校で46.9%、山重小学校で66.6%となっており、半分の小学校で50%に届いていないところです。なお、山重小学校は、アンケートの回答率は64%でした。検討について必要と回答された割合も66%ありますので、やはり山重小学校の保護者については、危機感を持っていらっしゃる保護者が多いのかなと考えております。また、通山小学校と野神小学校では、4割の保護者が「分からない」と回答しております。

4ページを御覧ください。学校の在り方についての検討が「すぐに必要」と「将来的には必要」と回答した保護者では、川西地区の4校、川東地区の2校が統合するほうが良いという回答が多くなっております。

5ページを御覧ください。その他の回答では、原田と蓬原、野神と山重の統合を望む意見がありました。

6ページから13ページまでは、検討が必要と回答した保護者の意見となっておりますので、お目通しください。

14ページを御覧ください。保護者が望む1クラス当たりの児童数では、前回と同様に、10人以上20人未満が最多となっておりますが、有

明小学校と通山小学校では、20人以上30人未満が最多となっております。現状の児童数ぐらいがいいと思っている保護者が多いと感じております。

15ページから20ページまでは自由意見となっております。検討が必要、必要ない、分からない、とそれぞれの立場で意見を書いていただいておりますので、お読みください。

今回のアンケートでは、3分の1の保護者が分からないと回答しております。更に、丁寧に説明を行って、保護者が主体的に考える取組が必要だと感じております。保護者からたくさんの御意見もいただきましたので、これらも踏まえて、取り組んで参りたいと考えております。

以上で報告を終わります。

【下平市長】 ただ今、報告がありましたが、皆様から何か御意見や御質問はありませんか。

【益田委員】 1ページのアンケートの結果で、それぞれの学校で回答率が違うのですが、自分事として捉えるということで、これからもアンケートをとられる御予定でしょうか。

【児玉課長】 有明地域については、学校のPTA総会で説明をさせていただいたところがございます。今後は、コミュニティスクールにも出向いて、現状をお示しして、地域の方と一緒に主体的に考えていただくよう、御理解を求めていると考えております。

【下平市長】 他に御意見等はありませんか。
特にないようですので、次の報告案件ウの「悠志学園の開校等について」を議題といたします。事務局による説明をお願いします。

【神田課長】 10ページを御覧ください。志布志市立悠志学園は、本年4月に開校いたしました。2の(1)、(2)の項目に学校組織、校時表を掲載しています。

学校組織といたしましては、市職員、県職員、合わせて15人のスタッフ、そして児童生徒25人でスタートいたしました。

(2)の校時表の特徴的なところといたしまして、登校・ウォームアップという時間帯がございます。まず、児童生徒が登校した際に、今日の見通しなどをしっかりともらった上で、1日の流れを掴んでいく、そのような時間も設けてあります。そして、下校前のクールダウン、1日の振り返りなどを通して、達成の見通しをもって登校がスムーズ

にできるような、校時表としても工夫しております。

次に、3 主な活動ということで、4 項目を報告します。

(1) 研修視察です。4月9日、10日に先進校視察として、大分県玖珠町のくす若草小中学校を訪問しております。教職員の実際の学校運営などについて、直接見ることができ、職員数だけでなく、職員会議なども、参観することができたということで、悠志学園の職員からも非常に好評で、今後の見通しを立てることができました。

(2) 開校記念式典です。4月16日に開校記念式典を行いました。県教育委員会の教育長、市議会議長他、たくさんの御来賓の方々をはじめ、祝辞をいただき、前畑校長からも、「児童生徒がゆっくり・じっくり自分のペースで学び、児童生徒・家庭・地域・学校が手を取り合い『ともに未来へ』歩んでいける学園を創ってまいります。」という挨拶もございました。

次に(3) 転入学セレモニーです。式典の翌日に、始業式に当たります転入学セレモニーを行っております。テープカットも行いまして、子供たちが、明日からの、次からの学校生活に期待がもてるようなセレモニーを行ったところです。

最後に(4) 校外学習を紹介します。ひまわりタイム、総合的な学習の時間になります。ひまわりタイムの時間を活用して、有明開田の里公園と生物多様性センターで初めての校外学習を行っております。このように、児童生徒の希望、こんなことをやってみたい、そういったようなことも集約しながら、学習活動を展開していくというようなことで、頑張っていきたいと思います。

以上で報告を終わります。

【下平市長】

ただ今、報告がありましたが、皆様から何か御意見や御質問はありませんか。

特にないようですので、次の報告案件エの「歴史的建造物活用推進事業について」を議題といたします。事務局の説明をお願いします。

【河野課長】

資料は、11ページを御覧ください。まず、令和4年12月に、株式会社つぎとは、現在、株式会社リタと社名が変更になっておりますが、連携協定を締結しております。令和6年2月に志布志東部地区エリア基本計画を策定いたしました後に、令和7年3月、志布志市歴史的建造物活用事業者の公募をいたしまして、株式会社ラッカン、株式会社リタの共同事業体とこの事業を進めていくことに決定をいたしました。令和7年7月に市有地土地建物賃貸借契約を締結いたしました。15年間の期間で締結しております。同年9月に山中氏邸3棟と木下氏邸1棟の改修工事着工をしております。令和8年3月に山中氏邸、木

下氏邸とともに完成をいたしまして、今年4月22日に地域住民向けの内覧、そして、4月28日にオープングレセプション及びマスコミ向けの内覧会を実施したところです。そして、お釈迦祭りに合わせまして、山中商店、おにぎり定食屋のプレオープンを始めております。5月1日から全てがオープンということで、木下氏邸、山中氏邸ともに分散型ホテルということで、HOTEL RACCAN、おにぎり定食屋さんの山中商店、そして、美容サロンのBase本店を開業しております。また、8月1日には、Bakery Raccando、チーズケーキ屋さんが開業を予定しているところでございます。現在、皆さんもご存じのとおり、あらゆるメディアに取り上げていただきまして、良いスタートダッシュができたと思っております。また、今後、開設されます多世代交流施設との動線も、きちんと図れて誘客が多世代交流施設とも図れるのではないかな、また、にぎわいが持てるエリアとなるのかなと考えております。今後につきましては、旧東郷医院の寄附申出書が先日ございまして、その受入れの準備をしているところです。年度内には公有化ができる運びで進めております。また、旧東郷医院の活用、歴史的建造物活用事業等をどういうふうにしていくかというところを事業者さんといろいろ協議を進めて参りたいと考えております。また、平山氏庭園も今年度、公有化を予定しております。平山氏庭園は公有化になりましたら、建物を取り壊しまして、当時のお庭の風景に戻すというような事業を行いまして、麓地区を中心とした、誘客を図れるような取組を引き続き行って参りたいと思います。以上で報告を終わります。

【下平市長】 ただ今、報告がありましたが、皆様から何か御意見や御質問はありませんか。

特にないようですので、次の報告案件オの「大妻女子大学との包括連携協定について」を議題といたします。事務局の説明をお願いします。

【川上課長】 大妻女子大学についての包括連携協定について報告をさせていただきます。資料は、12ページを御覧ください。まず、大妻女子大学につきましては、学校法人大津学院創立が1908年、明治41年9月という歴史のある大学でございます。所在地につきましては、東京都千代田区三番町12番地、キャンパスは、千代田キャンパスと多摩キャンパスの2つのキャンパスがございます。学生数は、2025年5月1日現在で6,808人という大学でございます。学部についてはお目通しいただきたいと思います。この大妻女子大学と本市とは、4月21日に教育長以下関係職員と大妻女子大学千代田キャンパスに出向きまして、連携協

定を締結したところでございます。協定の内容につきましては、担当から説明をさせていただきます。

【溝口 G L】

包括連携協定の締結の説明の前に、少しここに至った経緯について説明させていただきたいと思います。志布志市としては全国的な人口減少が進む中で、特に大学がないことから、高校卒業後、大学進学とか、就職のために市外に若者が転出してしまって、Uターンに繋がっていないということが本市の人口減少の特徴であったところです。これを解決するために、大学が市内にあれば一番いいでしょうけれども、なかなか大学誘致というところまではハードルが高くて、これまでサテライトキャンパスという取組を進めて参りました。サテライトキャンパスは、大学の施設外で学位の単位が取れるような、場所とか、施設のことを指すものです。これは、特に法律上の定めはないところですけれども、大学がない本市であっても、サテライトキャンパスを誘致することによって、若者が本市の中で活動して、本市の魅力を知ってもらって、例えば、地元企業との交流などを通じて、本市への就職であったりとか、本市で活動する、研究する中で、私たちの地域課題を解決するように一緒に取り組んでもらったりとか、あとは外から見た若者の目線で本市を外から見た視点について、私たちに意見をくださったりとか、いろいろな相乗効果があるのではないかなと思って、サテライトキャンパスの誘致に取り組んできたところです。それ以外にも、例えば、地元高校生と外部の大学生が交流することで、市外に一旦出て、戻ってくるというモデルが作れるのではないかなということで、サテライトキャンパスの誘致に取り組んできたところです。その取組の中で、これまで私たちのまちの女性活躍推進などで、アドバイスをいただいております教授に、このサテライトキャンパスのことについて私どもから御相談をさせていただいたところ、大学側としても、学部の再編に合わせて、地域外での活動研究の場を探していらっしゃるということで、サテライトキャンパスを誘致するような話がとんとん拍子で進んできたところです。いろいろな大学側との協議を経まして、大学内部としても本市での研究活動を正式に決定していただきました。この取組を継続的に進めていくために、民間企業と包括連携協定というのをたくさん結んできておりまして、この包括連携協定の制度を使って、大学間と長い関係性を築きたいなということで、本市から大学側に提案をさせていただいたところでした。3月27日に大学側から具体的な取組の御提案を頂きまして、4月21日に千代田キャンパスで協定を締結して参りました。

資料の13ページを御覧ください。具体的な取組としましては、1つ目の提案として、本市で大学生がフィールドワーク調査を実施します。

3週間程度、大学生が滞在して、現場に出向いて地域課題の解決といったフィールドワークを行います。人間共生学部 of 共生デザイン学科の学生が参ります。人間共生学部なので、共生社会を築くために必要な結構幅広い活動を研究されていらっしゃる学部でもあります。これを令和9年度から本格始動させます。今年度は、ゼミ単位で少し試験的に本市に来られて、本市内で研究活動するというために、こういったところが課題であるとか、滞在する場所とか、いろいろな現地調査をされる予定でございます。

2つ目です。教育を通したまちづくりの実践ということで、大妻女子大学にいろいろな専門の先生たちがいらっしゃいますので、協力をいただきながら、いろいろな地域課題の解決について御提案いただいているところです。資料の下の方にありますとおり、6つの専門性を持った学科があるところでございます。

14ページをご覧ください。3つ目としましては、人材育成に関するということ、志布志市と大妻女子大が共催する講演会等があれば、そこに、教授や講師を派遣することを御提案いただいております。実際、既に協定を結ばれている他の自治体にも、大妻女子大から講師を派遣されている実績があるということでした。ページの下の方ですが、これは大学がホームページで、協定を結んだことを、しっかりと周知していただいているところでございます。共生デザイン学科の学びが、志布志市を現場として、学生が学びますよということをしっかりとPRしていただいているところでございます。これを、大学の募集のチラシやパンフレットなどに掲載して、学生を募集して、募集した学生が、2年生になったときに志布志市を訪問するというサイクルができ上がっていくところでございます。今年度につきましては、協定を結んだ後、来年度からの具体的な活動内容の調整に入っているところでありまして、本市は東京駐在所を持っていることから、東京駐在所とも連携を図りながら、活動内容の調整を進めているところでございます。実際、志布志市に学生たちが来たときには、多世代交流施設のところを活動の拠点として、活用していただくということが決定しております。多世代交流施設の指定管理者には、本市で学生が活動する間に、必ず地元企業や高校生との交流イベントを開くことを募集の条件として、指定管理に入っているところでございます。今後は、例えば、悠志学園や今度作られる特別支援学校など、フィールドワーク先として、いろいろな魅力的な場所があるので、そういったところと一緒に取り組んでももらえないかなと提案できるのではないかと考えております。教育委員会とも連携を図りながら、今回の協定を生かした取組を進めていきたいと考えております。それから総合政策課としては、大妻女子大学の学部の受入れに留まらず、他の学部、

共生デザイン学科以外の受入れも検討したいと考えておりますし、将来的には、しっかり設備投資をしていただいて、本市に実際のサテライトキャンパスを大学単独で作ってもらえれば非常にありがたいなと思っております。大妻女子大学にかかわらず、他の大学についても引き続きサテライトキャンパスに向けて取り組んで参りたいと思っております。

以上で報告を終わります。

【下平市長】 ただ今、報告がありましたが、皆様から何か御意見や御質問はありませんか。

【福田教育長】 大変いいことだと思って、喜んでいるところです。大妻女子大は鹿児島県志布志市と包括連携協定を締結しましたというふうにパンフレット等も作られて、情報発信をされているということですが、志布志市として、プレスリリースは行ったのですか。

【溝口GL】 プレスリリースは終わらせています。また、ホームページにも掲載しています。

【福田教育長】 来年度から、学生が3週間程度、志布志市に滞在されて、フィールドワークを中心に、学びの場を設けられるということですが、是非、高校生だけでなく、中学生も大学生のフィールドワークの様子を見る機会を設けられると、深い学びになると思います。中学校では探求的な学習を充実させる授業をしているところですので、大学生が行うのは、まさにその姿だと思います。中学生が大学生が実際フィールドワークをして、自分の研究成果をまとめ、発表する経過を学んだり、場合によっては、どこかを一緒に回りながら経験させてもらうことは、本市の中学生、そして高校生にも非常に良い影響をもたらすことになるのではないかと思います。併せて、先ほど東京駐在所の話が出ましたが、志布志市役所東京駐在所の役割は物凄く大きいし、価値があるなということを常々思っているのです。現在、経済、産業、全てのことを担当する形で、今1人の担当がいますが、将来的には、例えば、教育分野と何かの分野を中心に見る人をサブ的な形で2人体制にするとか、そんなことも、もし可能であれば、考えていただければ、更に良い展開になっていくのではと思うところです。

【下平市長】 東京駐在所の児玉シティセールス統括官が行っている業務を、課長の方々に是非、情報共有したいと思っております。どういう考え方で

東京駐在所において業務をしていくのか、全ての課長に理解してもらいたい。教育関係や色々な分野のことがあるが、その中で、実はこういうこともできないのかというようなことを情報共有できる機会を作っていきたいと思っております。

【下平市長】

他に御意見等はありませんか。

それでは、以上で報告案件を終了し、次の(2)協議に移ります。協議案件アの「令和8年度に取り組む学校の在り方検討について」を議題といたします。事務局による説明をお願いします。

【児玉課長】

それでは、協議事項アの「令和8年度に取り組む学校の在り方検討について」御説明いたします。

本日、差替えを行いました1枚紙の資料を御覧ください。

今後の児童生徒数の推移と有明地域のアンケート結果を踏まえて、教育委員会で令和8年度に取り組む検討内容について、市長と協議をした上で進めていきたいと考えているところでございます。

まず、1 学校の在り方検討の目的につきましては、今後6年間の急激な児童数の減少を踏まえ、これからの学校の在り方について、保護者や地域の皆様と一緒に考える場を設けるなど、議論を醸成させながら、将来の担い手となる子供たちにとっての「より良い学びの場と一緒に考える。」としております。

2 令和8年度の実施につきましましては、学校は「学びの場所」であるとともに、「友達をつくる場所の一つ」でもあることについて認識を持っていただけるようにする。としております。その中の(1)ですが、有明地域の6小学校については、川東地区の2小学校、川西地区の4小学校のPTA総会及び学校運営協議会において、今後の児童生徒数の推移及び昨年度行いましたアンケート結果等を示し、保護者や地域において議論の醸成に努める。としております。(2)ですが、志布志地域の3小学校については、PTA総会及び学校運営協議会において、今後の児童生徒数の推移を示し、現状を認識していただく。また、保護者アンケートを実施し、保護者の思いを聴く。としております。

3 現状と課題です。(1)の有明地域の6小学校ですが、今後6年間で44%減少することが見込まれています。学校統合に関して地域では、「学校がなくなる」ことで地域の衰退を懸念する意見が多い。保護者の望む教育環境についての意見を集約し、地域を含め、現状について理解を深めてもらう必要がある。としております。(2)の志布志地域の3小学校ですが、今後6年間で24%減少することが見込まれています。市街地にある3小学校の保護者には、小規模校であることや令和12年度には市街地にある3小学校でクラス替えができるのは、3校

全体で1学校1学年のみとなるという認識がないため、保護者アンケートを通じて、この点についても理解を深めてもらうとともに、南海トラフ地震に備え、より安全安心な学校環境とする必要があることについても理解をいただく。としております。志布志地域の3小学校につきましても、児童生徒数の推移を示した上で、保護者アンケートを実施したいと考えております。アンケート内容につきましては、16ページから18ページまでに記載してございます。内容につきましては、昨年、有明地域で実施しましたアンケートと同じ内容となっております。これらの取組等につきまして、今回協議していただきまして、御意見等を承ればと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

【下平市長】 ただ今、説明がありましたが、何か質疑、意見等はありませんか。

【益田委員】 2 令和8年度取組の学校は「学びの場所」とするとともに、「友達をつくる場所の一つ」の友達を作る場所の言葉をちょっと変えられないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。友達を作る場所の一つを少し広げられないかと思います。

【児玉課長】 「友達をつくる場所の一つ」という表現になったのは、学校は基本、学びの場所であるというところは異論のないところだと思います。去年、松山地域で学校を統合することについて、小学生、中学生にアンケートを行いました。その中でやはり、友達が増えるということを非常に楽しみにしているという回答が、私たちの想像を超えるぐらいの数、書かれておりました。振り返ったときに、やはり、学生時代は、どちらかというと、友達と遊ぶ、和気あいあいとしたいというところが強いのかなという思いで友達を作る場所の一つというふうにした方が、保護者の方にはメッセージとして伝わりやすいと考えて、このような表現にしたところです。今回、松山小学校の3小学校で合同遠足に行っていますが、そこでも、やはりすごく楽しかったと日記等にも書いているのを見ると、やはり友達と触れ合うということが、小学生、中学生には一番大事なのかなというところで、分かりやすいメッセージになるように整理したところです。協議していただいて、御意見等を出していただき、御意見を参考に変えていきたいと思っております。

【福田教育長】 課長の思いとしては、友達はやはりキーワードだと思ったということですね。

【益田委員】 ねらいとしては理解しますが、説明する上で伝わりやすい言葉にしていいただければと思います。

【児玉課長】 もっとたくさん書き込みたいところもあるのですが、あまり、ぼやけてもいけないなと思うところです。子供が先生と触れ合う中で、将来の自分の道をみつけるなど、色々なことがあると思うのですが、児童減少の中での困りごとじゃないですけど、やはり、子供達の思いというのは、こういったところなのかなということで、このような表現にしたところです。

【下平市長】 他に御意見等はありませんか。

 特に、異議もないようですので、「令和８年度に取り組む学校の在り方検討について」は了承することといたします。

 以上をもちまして、日程にある全ての議題の審議を終了したいと思います。御協力ありがとうございました。

○ その他

【富岡課長】 ありがとうございました。

 それでは、会次第４のその他についてですが、委員の皆様から何かございますか。

【益田委員】 前回の総合教育会議において、日本語サポート教室の実施について伺っております。６月から支援開始の流れになっているということで伺っていますが、どのような流れになっているのでしょうか。

【神田課長】 現在、サポート教室については準備を進めているところです。６月に悠志学園内に設置ができるように準備をしているところです。現在いらっしゃる講師の先生を中心に進めているところですが、また、あわせて、いわゆる子供たちの支援の窓口を広げていくということで、オンラインなどでも学習支援ができないかといった、別な方策についても考えているところです。６月に向けて、広報活動もしていこうということでサポート教室は進めているところです。

【富岡課長】 他に御意見等はありませんか。

 それでは、事務局から連絡事項がございます。

 これまで各小学校、中学校で開催される運動会、体育大会については、御案内をいただき、市長が訪問させていただいておりました。しかしながら、運動会、体育大会の開催日が重なることや、公務の都合に伴い、各学校への滞在時間が短く、運動会の充実した雰囲気や児童

生徒の熱心な姿を見る時間が十分に確保できない状況でありました。このような事情を踏まえ、今年度から各小学校、中学校で開催される運動会、体育大会への訪問は控え、各学校を訪問し、児童生徒の授業の様子などを直接参観させていただきたいと考えております。このことにつきましては、各学校に文書にて、御連絡させていただいたところです。ただし、公務の都合上、毎年、全ての学校を訪問することは難しいところではあります。今後とも、市としましては、教育委員会、学校と協力しながら、児童生徒のための行政運営に当たっていきますので、御理解をよろしくお願いいたします。以上が事務局からの連絡事項となります。

○ 閉会

【富岡課長】

他に御意見等はありませんか。

特にないようですので、会議を終了したいと思います。

以上をもちまして、令和8年度第1回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

午後3時20分 閉会

会議録署名

志布志市長

下平晴行

教 育 長

福田 裕生

教育委員

島津 陽亮

教育委員

津町 千代子

教育委員

登田 裕子

教育委員

前田 和彦